

しろいし 市議会だより

2019
春
第193号

【表紙写真】第5回 市民と議会の意見交換会の様子
(3月24日開催:総務産業建設常任委員会)



(3月31日開催:厚生文教常任委員会)



2月定例会

平成31年度一般会計当初予算
141億3千533万2千円を可決

平成31年2月定例会は、2月22日から3月8日までの15日間の日程で開催されました。市長提出議案は、条例等14件、予算12件の計26件でした。

定例会初日、市長の施政方針を受け、その後、すべての議案の提案理由の説明が行われました。

2日目、第1号議案から第26号議案までの質疑が行われ、予算の12議案は、予算審査特別委員会に審査が付託されました。その他の議案は、2日目に表決まで行われ、採決の結果、全会致で原案のとおり可決しました。

一般質問は、3月6日と7日の2日間で、13名の議員が質問を行いました。

定例会最終日（3月8日）の本会議において、委員長報告を行なった後、採決の結果、第15号議案から第26号議案は、いずれも全会致で原案のとおり可決しました。

また最終日に、市長提出議案3件（第27号議案から第29号議案）が追加提案され、採決の結果、全会致で原案のとおり可決しました。

同日、議員提出議案1件が上程され、採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決しました。



市長の提案理由説明

審議した議案の主なものは次のとおりです。

条例等

◎消費税法等の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例

平成31年10月1日に予定されている消費税及び地方消費税の税率の改定に伴い、本市の条例に規定されている使用

料、利用料等の料金の改正について、その根拠が消費税法等の改正によるもののみであることから、該当する条例の改正をまとめた条例を制定するものです。

〔改正する条例：25条例〕

予算

◎平成30年度白石市一般会計補正予算（第6号）

2月定例会で審議した議案		
議案番号	件名	審議結果
第1号	市 長 提 案 仙南地域公立認可保育所の相互利用に関する協定の廃止に関する協議について	原案可決
第2号	消費税法等の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例	原案可決
第3号	白石市農産物直売所建設基金条例を廃止する条例	原案可決
第4号	白石市職員の自己啓発等休業に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第5号	白石市市税条例の一部を改正する条例	原案可決
第6号	白石市環境基本条例の一部を改正する条例	原案可決
第7号	白石市駐車場条例の一部を改正する条例	原案可決
第8号	白石市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第9号	白石市歯科休日診療所条例を廃止する条例	原案可決
第10号	白石市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第11号	白石市子育て支援・多世代交流複合施設条例の一部を改正する条例	原案可決
第12号	白石市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	原案可決
第13号	白石市子ども医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第14号	白石市心身障害者医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第15号	平成30年度白石市一般会計補正予算（第6号）	原案可決
第16号	平成30年度白石市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	原案可決
第17号	平成30年度白石市介護保険特別会計補正予算（第4号）	原案可決
第18号	平成30年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	原案可決

これまでの歳入歳出予算からそれぞれ4千896万7千円減額し、予算総額を153億1千746万とするものです。

◎平成31年度白石市一般会計
予算

予算総額は、141億3千533万2千円で、前年度と比較すると3.3%の減となります。
主な内容は次のとおりです。

○第六次白石市総合計画・第三次白石市国土利用計画策定事業 1千595万1千円

○有害鳥獣対策事業

3千696万8千円

○農産物・加工品等食事提供施設等整備事業

1億6千万円

○6次産業チャレンジ法人支援事業 8千700万円

○公園施設長寿命化対策事業

8千万円

○中河原白石冲街路事業

3億7千180万1千円

○特別支援学級等サポート事業

1千668万5千円

○語学指導事業

2千232万1千円

本会議質疑より

◎消費税法等の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例

〔質疑〕夏には参議院選挙があり、その結果次第では、再度増税が延期される可能性もあると思うが、今議会に本条例を上程した理由を伺う。

〔答弁〕地方自治法では、議決を要すべき案件が予算を伴うものである場合には、予算上の措置が的確に講じられるまでの間は、これを議会に提出してはならないと規定されている。

平成31年度予算案については、平成31年10月の消費税及び地方消費税税率の改定を加味したものとなっていることから、今議会を捉えて本条例を上程したものである。

◎白石市駐車場条例の一部を改正する条例

〔質疑〕白石駅前自転車駐車場及び東口自転車駐車場の料金を無料にする理由を伺う。

〔答弁〕現在、白石駅前自転車駐車場及び白石駅東口自転車駐車場の収支状況を見ると、収入以上に維持管理経費がかかっている状況にある。

さらに、利用者の減少により収入も減少していることから、無料化して料金徴収業務の経費の支出を削減し、J・R利用者の利便性の向上を図ろうとするものである。

◎平成31年度白石市一般会計
予算

〔質疑〕平成31年度の予算編成に当たつての市長の思いと、今後の財政運営についての考えを伺う。

〔答弁〕非常に厳しい財政状況の中で、持続可能な白石市であるための行財政運営をしていくことが大きな課題であり、目の先のことだけではなく、20年、30年後を見据えたビジョンをしっかりと打ち出しながら、運営していかなくてはならないと考えている。

平成31年度当初予算は、繰出金、交付金事業、整備事業等

第19号	平成30年度白石市水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決
第20号	平成30年度白石市下水道事業会計補正予算(第3号)	原案可決
第21号	平成31年度白石市一般会計予算	原案可決
第22号	平成31年度白石市国民健康保険特別会計予算	原案可決
第23号	平成31年度白石市介護保険特別会計予算	原案可決
第24号	平成31年度白石市後期高齢者医療特別会計予算	原案可決
第25号	平成31年度白石市水道事業会計予算	原案可決
第26号	平成31年度白石市下水道事業会計予算	原案可決
第27号	災害弔慰金の支給等に関する条例の一部を改正する条例	原案可決
第28号	平成30年度白石市一般会計補正予算(第7号)	原案可決
第29号	平成31年度白石市一般会計補正予算(第1号)	原案可決
第1号	中小業者の自家労賃を必要経費として認めることを求める意見書	原案可決

議員提案

に係る経費などの減少により前年度比3.3%の減で、4年連続マイナスの予算編成となった。これからも国の交付金などを活用し「市民の笑顔あふれる白石」の実現に全力で取り組んでいく所存である。

〔質疑〕平成31年度白石市外二町組合の繰出金が、前年度に比べ約4億円の減となっているが、市長の所見を伺う。
〔答弁〕白石市外二町組合で経営する公立刈田総合病院は、地域住民の健康を守る大切な医療機関であり、これまで本市は多額の財政負担を行い支えてきたが、その財源は潤沢な基金があればこそその財政支援であった。

しかし、現在、本市も非常に厳しい財政状況であり、病院としても「企業体として、さらなる企業努力、経営努力は必要と考えることから、ぜひとも経営改革について力強く進んでいただきたいと考えている。

予算審査特別委員会

第15号議案・平成30年度白石市一般会計補正予算(第6号)

から第26号議案・平成31年度白石市下水道事業会計予算までの計12議案について、定例会2日目(2月27日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・山谷清、副委員長・澁谷政義)は、2月28日から3月4日までの間で審査を行い、すべての議案について、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎平成30年度白石市一般会計
補正予算(第6号)

農林水産業費

〔質疑〕補正した地籍調査費について、作業内容と今後の見通しを伺う。

〔答弁〕今回、補正で計上している予算は、平成31年度に予定の本町、八幡町、益岡など0.77平方キロメートルで、駅前方面、兎作、沢目なども取り組んでいく予定としている。

終了年度は、平成33年度完了予定を見越して現在進めているところである。

消防費

〔質疑〕ハザードマップ作成業務について、浸水想定区域や土砂災害警戒区域等のハザードマップを作成するとしているが、火山災害なども取り入れるのか伺う。

〔答弁〕掲載するデータは、浸水想定区域、土砂災害警戒区域等を考えており、火山災害については、火山災害のハザードマップが既にあることから、そちらで対応していきたいと考えている。

◎平成31年度白石市一般会計
予算

総務費

〔質疑〕企画費の甲冑試着体験強化委託料について、強化委託となっているが、通常の甲冑試着とは違う新たな取り組みなのか伺う。

〔答弁〕これまでの甲冑試着は、白石城にきた観光客に試着していただいていたが、壽丸屋敷にきた観光客についても甲冑試着をしていただくよう、事業の予算を計上しているものである。

〔質疑〕企画費の備品購入として公用車の購入費が計上されているが、その詳細と用途について伺う。

〔答弁〕公用車は、市民バス2台の購入を予定している。

新たに小型の市民バスを1台、ワンボックス型の市民バスを1台としており、現在稼働している古いバス2台との入れ替えを予定している。

ワンボックス型の市民バスの

定員は14名の予定となっており、本車両の路線は、小原線の運行を考えている。

民生費

〔質疑〕心のケアプロジェクト事業のうち、子ども部門については、保育の質の向上のため、発達障害や行動が気になるお子さんへの保育士のかかわり方や事例の研修を行うとの説明があった。

この研修の詳細と講師はどのような方がなるのか伺う。

〔答弁〕心のケアプロジェクトについては、各園で対象となった園児のクラスを持った保育士や主任保育士、園長が研修会で指導を受けることを想定している。

回数是一年1回を予定しており、子どもの発達に関する見解を持った医師が講師となりアドバイスをいただくこととしている。

衛生費

〔質疑〕放射能対策費は前年度予算より1千200万円ほど増加している。

これは農林業系廃棄物の本焼却費用を計上したことによると思うが、今後の焼却計画について伺う。

〔答弁〕農林業系廃棄物の本焼却のスケジュールについては、平成31年度は4月に契約事務を予定しており、本焼却に入るのは5月中旬からと考えている。

また、仙南地域広域行政事務組合との協議により、平成31年度については、堆肥から焼却する予定となっている。

農林水産業費

〔質疑〕市行造林費の委託料1千万円が計上されているが、昨年度は1千493万9千円であった。

今回、減額された理由と森林環境譲与税の取り扱いはどうなるのか伺う。

〔答弁〕市行造林管理として森林の管理計画を5年ごとに立てているが、その計画に基づき市行造林内の間伐等の整備を

進めている。

平成30年度は67ヘクタール、平成31年度は54ヘクタールであることから、対象となる面積が少ない分、減額となっている。

また、森林環境譲与税は、あくまでも民有林、私有林に対してのものであり、市行造林など既に管理されている山などは対象外となっている。

商 工 費

〔質疑〕農産物加工品等食事提供施設等整備事業補助金の詳細について伺う。

〔答弁〕本事業補助金については、農商工連携を核とした賑わい交流拠点に建設予定の食事提供施設「みのりキッチン」の建設並びに設備機器の購入を見込んでいる。

また、この他として旧白石市生ごみ資源化事業所（シリウス）を活用した商品開発研究施設「みのりラボ」の建設並びに実験台などの什器購入、さらに今ある建物の改修費用や分析機器、水質検査などの機器類の購

入も見込んでいる。

〔質疑〕新規事業であるジャパノエコトラックによる蔵王観光発信事業について、詳細を伺う。

〔答弁〕本事業は、山形市と仙台市が連携して設定しているロングトレイルコースをベースとしている。

自転車やカヌーなどの人による移動手段で自然を体験しながら地域の歴史や文化、交流を楽しむ旅「エコトラック」と発展させ、コース新設や延長、派生ルートの充実を図り、蔵王ブランドを確立し、発信していくことによつて海外からの誘客を推進する事業である。

土 木 費

〔質疑〕住宅管理費の工事請負費3千305万9千円について、詳細を伺う。

〔答弁〕平成28年度から平成32年度までの白石地域住宅等整備計画に基づき、公営住宅のストック総合改善事業として、岩崎住宅の住戸改善（浴室の改

平成31年度 一般会計予算

（単位：千円・％）

歳 出		
款 別	予 算 額	構 成 比
1. 議 会 費	176,067	1.25
2. 総 務 費	2,157,316	15.26
3. 民 生 費	4,738,846	33.52
4. 衛 生 費	1,321,134	9.35
5. 労 働 費	1,636	0.01
6. 農 林 水 産 業 費	368,924	2.61
7. 商 工 費	969,516	6.86
8. 土 木 費	1,519,669	10.75
9. 消 防 費	483,548	3.42
10. 教 育 費	1,187,257	8.40
11. 災 害 復 旧 費	2,989	0.02
12. 公 債 費	1,193,277	8.44
13. 予 備 費	15,153	0.11
合 計	14,135,332	

平成31年度 各会計予算

（単位：千円・％）

会 計 別		平成31年度 予 算 額	平成30年度 予 算 額	平成29年度 当初予算比
一 般 会 計		14,135,332	14,621,115	△ 3.3
特 別 会 計		8,054,957	7,932,823	1.5
会 計 内 訳	国 民 健 康 保 険	3,952,320	3,846,105	2.8
	介 護 保 険	3,692,273	3,673,330	0.5
	後期高齢者医療	410,364	413,388	△ 0.7
合 計		22,190,289	22,553,938	△ 1.6

企業会計

水 道 事 業 会 計	1,370,720	1,628,644	△ 15.8
下 水 道 事 業 会 計	1,992,646	1,994,258	△ 0.1

※企業会計については収益的支出＋資本的支出額

教 育 費

善）、桜田住宅2号棟、3号棟の屋根断熱化等を予定している。また、外部排水工事として、緑が丘住宅の工事を予定している他、市営住宅関係の修繕工事なども見込んでいる。

〔質疑〕教育振興費のスクールバス運行業務委託料について、その学校の行事計画に従い、前年度予算より370万円ほど増行なっていきたいと考えている。加している。

福岡中学校及び統合になる南中学校、白川中学校の生徒たちの休日のスクールバス運行という説明だが、休日の運行予定や計画はどのようになっているのか伺う。

〔答弁〕スクールバスの休日運行を予定している。

◎平成31年度白石市国民健康保険特別会計予算

〔質疑〕国民健康保険制度は、昨年の4月から県単位という形になったが、市町村単位と大きく変わった点などについて伺う。

〔答弁〕まず、今回の制度改正によって、保険給付費の支払いが県から普通交付金という形で交付されるため、保険給付費に係る支払不足の不安がなくなったという点が一番大きなところである。

次に、保険者努力支援制度が本格導入されたことから、市町村の努力の成果に応じて得点を競わせ、それによって特別交付金が決まるという新たな制度となり、また、レセプトの点検確認を県が一括委託して適正化に努めることとなった。

さらに、国保事業費納付金が高額に創設されたが、この納付金については、算定のため市町村の担当者と県の担当者が年間を通して協議を続けているところである。

◎平成31年度白石市介護保険特別会計予算

〔質疑〕配食サービス事業委託料について、外部事業者に委託するという説明だが、その詳細を伺う。

〔答弁〕本事業で利用している総合福祉センター内の備品設備については、3台の車両や厨房の冷蔵庫、冷凍庫、キッチン、弁当箱などが老朽化しており、更新時期を迎えている。

このまま事業を進めれば、平成31年度は多額の更新費用を準備しなければならず、その場合、配食利用者の負担金を上げざるを得なくなる。

また消費税増税による負担金の上昇も見込まなければならぬことから、現在の備品設備は使わず、備品設備を所有する外部事業所に委託し、経費の上昇を抑えた形をとったものである。

このことから、平成31年度は完全に外部委託を行い、事業を継続してするための予算を計上している。

◎平成31年度白石市水道事業会計予算

〔質疑〕アセットマネジメント策定業務について、詳細を伺う。

〔答弁〕本業務は、水道施設の資産について、今後効率よく運用していくにあたり、中長期的な視点に立って水道施設の効率性的かつ効果的な管理をするための計画を策定するものである。

◎平成31年度白石市下水道事業会計予算

〔質疑〕流動資産と流動負債の貸借やキャッシュフローをみると、昨年の下水道料金値上げによる効果があまり感じられないが、所見を伺う。

〔答弁〕昨年の下水道使用料改定における増収はあるが、下水道事業会計は一般会計からの補助金に頼らざるを得ない状況である。

使用料が増収となっても、一般会計からの補助金がある程度減額となるため、顕著に改善されるという状況にはなっていない。

スマートインターチェンジ設置推進特別委員会中間報告

定例会初日(2月22日)、スマートインターチェンジ設置推進特別委員会の活動経過について、四電英夫委員長より中間報告がなされました。報告の概要については、次のとおりです。

平成31年2月8日に関係部課長の出席を得て、近隣市町で供用開始している2カ所のスマートIC等への先進地視察を実施した。

名取中央スマートIC及び山元南スマートICでの現地視察においては、主な事業効果について説明があり、山元町での行政視察においては、担当者の説明を受け、質疑応答及び意見交換を行なった。

今回の視察により、改めてスマートIC整備による事業効果が期待できることを認識したことから、今後も時宜を得た活動により事業の円滑な推進を図っていくことを確認したところである。

仙南・仙塩広域水道の料金見直しを要望

3月15日、志村新一郎議長ほか議員13名が県庁を訪れ、村井嘉浩知事に「仙南・仙塩広域水道の料金見直しに関する要望書」を提出しました。

志村議長はこの料金は、30年前の水道使用見込みに基づき算定された料金であり、受水市町間において非常に大きい料金差がある。平成32年4月に控える広域水道料金改定の際に、現状に応じた公平な料金体系の見直しを求めたい」と強く要望しました。



要望書提出の様子(白石市議・村井知事・宮城県議)

市政に 対する 一般質問

2月定例会の一般質問は、3月6日・7日の2日間にわたり行われました。質問の要旨は次のとおりです。

四 竈 英夫	施政方針について
小 川 正人	人材育成について
佐 藤 龍彦	平成31年度施政方針について
澁 谷 政義	平成31年度施政方針について
沼 倉 啓介	財政運営について
平 間 知一	高齢者の生活支援について
菊 地 忠久	子どもの安心・安全について
佐久間儀郎	ふるさと名物応援宣言について
菅 野 恭子	「SDGs」の積極的推進について
松 野 久郎	平成31年度施政方針について
伊 藤 勝美	施政方針について
大 野 栄光	児童虐待・児童の権利について
佐 藤 秀行	施政方針について

他 他 他 他 他 他 他 他 他 他 他

施政方針について

四 竈 英 夫



〔質問〕平成31年度を「教育改革元年」と位置づけた経緯と意思を伺う。

〔答弁〕〔市長〕次代を担い、新たな社会の価値を創造する子どもたちに對し、確かな学力等を育成する環境を整えることは、私たちの責務であると考えます。

このため、平成31年度を学力向上施策を展開するスタートの年と位置づけたものである。

〔質問〕学力をいづころまで、どのレベルまでに引き上げたいと考えているのか。

〔答弁〕〔市長〕できれば数年以内に、全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国平均、またはそれを超えるレベル

に達することを目標として取り組んでいきたいと考えている。

〔質問〕農産物等販売施設「おもしろいし市場」の品ぞろえや安定的な数量を確保するための方策を伺う。

〔答弁〕〔農林課長〕市場の運営については、NPO法人小十郎まちづくりネットワークに業務を委託しているが、品ぞろえや安定的な数量確保のため、会員の募集を行なっており、約70名の参加があった。

今後、会員確保のため、運営事業者に申し入れを行なっていく。

〔質問〕益岡公園野球場の改修工事は3年目を迎えるが、今後どのような対策をとるのか。

〔答弁〕〔市長〕本事業は社会資本整備交付金の補助を受け行なっている

が、要望額に対して国の配分額が極めて低いのが遅れている原因である。

今後、地元国會議員

や県議會議員など関係各所に要望を行い、最大限の努力をしていく。

◎児童虐待について

〔質問〕児童虐待により幼い命が失われる事件が起きているが、どのような対策をとっているのか。

〔答弁〕〔保健福祉部長〕児童虐待や育児放棄防止のため、発生の迅速な対応や虐待を受けた子どもの自立支援に至るまでの切れ目ない体制構築、関係各所との情報共有に取り組んでいる。

また、相談を受けた場合は、家庭相談員を中心に、小・中学校、幼稚園、保育園等と連携し情報収集に努め、また、児童相談所、警察署なども交えながら対策に当たっている。

人材育成について

小川 正人



〔質問〕人材育成も市の大事な責務だと考えている。今年も4月になれば新入職員が入庁してくるが、その職員の能力を最大限に引き出すことが必要である。

市政を推進していく上で、欠かすことのできない人材であり、そのような人材を育てるために欠かすことのできないものが教育である。民間の考えを取り入れた教育も必要と思うが、現職員も含めて、市長はどのような教育の方法を考えているのか伺う。

〔答弁〕【市長】職員の人材育成については、職員一人一人の個性を生かし

ながら、その能力を最大限に発揮することができよう、効果的な教育研修を行なっている。

今後も、民間企業の柔軟な発想やコスト意識などを取り入れた研修と公務員としての研修をバランスよく組み合わせた人材育成に取り組んでいく。

◎防災対策について

〔質問〕現在、市の職員は347名であり、そのうち68名、19.6%は、平成23年の震災時は職員ではなく、震災対応の経験がない。

仙台市では、退職職員による震災時の体験談の講演なども行なっているが、震災対応の経験がない職員に対し、どのような災害対応の教育を考えているのか伺う。

〔答弁〕【市長】東日本大震災から間もなく8年を迎えるが、当時の状況を知らない若手職員も確かに多くなってきた。

今後は、中堅職員や管理職といった当時を体験した職員の経験を若手職員にもしっかりと継承し、伝えることができるよう検討していきたい。

〔質問〕震災時に備えて、緊急車両等のガソリンを常に満タンにするような対策を職員に周知する必要があると考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】日頃から満量近くの給油を心がけてはいるが、改めて災害応急対策車両として、危機管理課、建設課、農林課、上下水道事業所などの公用車、合計16台の指定と心がけについて、再度周知していきたい。

◎その他の質問

◎財政について

平成31年度施政方針について

佐藤 龍彦



〔質問〕施政方針における「確かな学力の育成」とは何を意味しているのか伺う。

〔答弁〕【市長】将来の夢、希望を実現していく上で、学力は絶対に必要と考えている。

このことから、知識や技能の他、学ぶ意欲や課題を見つけ主体的に判断・行動し、より多くの問題を解決する資質や能力、これらを含めた総合的な学力を「確かな学力」として捉えているものである。

◎「置き勉」について

〔質問〕「置き勉」とは、置き勉強道具の略語のこと、登下校時の荷物を軽くするために、児童・生徒が教科書な

どを教室に置いて帰ることを言う。

脱ゆとり教育への方向転換後、教科書の大判化、ページ数の増加が進み、ランドセルや通学かばんの重さが子どもへの発育や健康に影響を及ぼす可能性があると問題視されている。

本市の子どもたちのランドセル、通学用かばんの重さについての認識を伺う。

〔答弁〕【教育長】重さについての児童・生徒の感じ方には個人差があると理解している。

現状において、各学校からは過重な負担にはならない旨の報告を受けており、今後も適切に対応していきたい。

〔質問〕本市は置き勉に対して、どのように子どもたちに指導しているのか。

〔答弁〕【教育長】各学校からは、保護者と連携を図りながら、登下校時の過重な負担にならないように、また、家庭での宿題や予習・復習などに支障が生じないように適切な対応をしていると報告を受けている。

〔質問〕本市は、今後、子どもたちのランドセル、通学用かばんの重さへの解決策をどのように考えているのか。

〔答弁〕【教育長】各学校で重さを調査したが、小学校低学年は平均で3.4キログラム、中学年は4.0キログラム、高学年は4.7キログラムであったことから、個人差はあるが、おおむね適切な重さとして配慮されているものと認識している。

◎その他の質問

◎地域支えあいによる「ふみ出」について

〔質問〕放射能汚染廃棄物（農林業系）の本焼却について

平成31年度施政方針について

澁谷 政義



〔質問〕企業誘致に関しては、過去に幾度か議論があった。

施政方針では一歩踏み込んだ内容として、新たな工業団地の造成に向けて検討を開始すると述べているが、その詳細を伺う。

〔答弁〕【市長】現在、スマートインターチェンジの整備に向けた協議・調整に合わせ、工業団地の造成も含めたエリア整備が必要かどうかについて検討しているところである。

〔質問〕有害鳥獣対策について、箱わな製作の補助金は3年に1基しか申請できない。

毎年助成を受けて箱わなを製作し、被害防

止に寄与したい要望があるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】箱わな補助は、箱わな設置者以外でも補助が受けられることから、地域ぐるみの話し合いによる購入等により対応いただきたいと考えている。

〔質問〕農地中間管理事業を推進し、生産現場の強化と耕作放棄の発生防止に努める方針だが、所見を伺う。

〔答弁〕【農林課長】今後、さらなる制度の周知、啓発に努めていきたいと考えている。

◎市道高畑線整備について

〔質問〕国道4号沿いの福岡地区は「農商工連携を核とした賑わい交流拠点」の整備や大型スーパー等の出店など、本市第二の商業エリアとなっている。

当地は、店舗への入りに渋滞が発生していることから、住民の安全と交通の円滑性を図るため、早急に市道高畑線の整備を行うべきと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】周辺道路の交通状況も調査しながら、改良工事を検討していきたい。

◎白石和紙保存について

〔質問〕白石和紙保存について、原料「虎斑楮」のみを用いた紙漉きを市民グループ「蔵富人」が引継ぎ、伝統の工程を継承している。

歴史ある文化財産をどのように未来につないでいくのか伺う。

〔答弁〕【市長】白石和紙を未来につないでいくには、多くの方に状況を周知し、理解と参画をいただくことが重要であり、財源についても検討していく必要があると考えている。

〔その他の質問〕

◎学習状況調査について

財政運営について

沼倉 啓介



〔質問〕当初予算の提案に至るまでには、厳し過ぎる環境の中でも活路を見出し、財政運営の安定性を求めている姿をかいま見る。

市民サービスの低下を伴わないような財政運営の維持のためには、どのような努力が必要と考えているか伺う。

〔答弁〕【市長】安定的な財政基盤を確立し、子どもたちや次の世代にツケを残さない、市政課題を先送りしないことが大事であると考えている。

〔質問〕地方債の活用を通して、今後の負担と現在の安定性を図り、均衡を保っていく。これが地方債の大きな存在

意義であると思う。

本市が安定的財政運営を図っていくにあたり、地方債をどのように活用するのか伺う。

〔答弁〕【市長】今の本市の体力を見ると、単費で事業全てを行うことは不可能であることから、今後も最大限に地方債の活用を進めていきたい。

また、財政の健全性を維持していく上で、公債費として起債の償還も計画的に進めているところである。

〔質問〕市民自体が、地方自治体に対する財政の姿を意識し始めていると思う。

財政運営の安定化を図るためには、市民を巻き込んでいく必要性があると思うが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】市政運営

は行政だけで全て完結できるものではない。

市民の理解と協力が必要不可欠であると考えている。

◎「祭り」と「まちづくり」について

〔質問〕夏の花火大会がなくなり、今度は夏まつりがなくなるのではないかとという話が聞こえてくるが、「祭り」についての見解を伺う。

〔答弁〕【市長】夏まつりを含めた市内のお祭りは、活気ににぎわいを創出し、まちづくりに大きく貢献すると理解しているが、白石商工会議所より平成31年度以降は、白石夏まつりの実行委員会事務局を引き受けられない旨の申し出があった。

平成31年度からの夏まつりの実施体制は、市が実行委員会事務局を受け持つことはせず、事務局を担える団体に対し、補助金を交付する形で実施していきたいと考えている。

高齢者の生活支援について

平間 知一



〔質問〕超高齢化社会を迎えようとしている中、75歳を超えると介護の必要度は急激に上昇する。また、要介護認定を受けている方は、6割以上の方が「自宅で介護してもらいたい」と自宅での暮らしを望んでいる。

今後は、家庭ごみの搬出の協力、日用品の買い物の手助け、冬季の通路の除雪・融雪などについて、ひとり暮らしの高齢者、老老介護世代、80歳以上の高齢者世帯、体の不自由な高齢者がおられる世帯などをリストアップし、高齢者の生活を市民が支え合う仕組みをつくる

必要があると考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕〔長寿課長〕本市は、地域における高齢者の生活を市民が支え合う仕組みづくりに力を入れており、高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業を実施している。

これは、市が社会福祉協議会へ事業を委託しているもので、主に要支援以上の高齢者に家事支援のサービスを行っている。

高齢者情報のリストアップについては、個人情報取り扱いが難しい面もあるが、これらの事業において、人と人がかかりを持つ中で、新たに支援を必要とされる方々の情報を得て、地域で声掛けができる体制をつくっていただければ

ばと考えている。

〔質問〕特別養護老人ホームなど社会福祉施設と地域社会の相互の交流を深めることで、孤独な高齢者を一人でも減らしていくことができれば、所見を伺う。

〔答弁〕〔長寿課長〕現在、各地域で展開されているサロンは、高齢者同士が楽しく活動されることで、生き生きとした生活を送られている。

このことから、孤独な生活を送られている方が、地域のサロンに参加いただくことは、元気で楽しく生活するための一助になると思われる。

その上で、サロンと社会福祉施設が自発的にかわりを持っていけば、地域社会の相互交流が深まっていくことになると考えている。

【その他の質問】

◎認知症患者への対応について

◎健康推進について

子どもの安心・安全について

菊地 忠久



〔質問〕「子ども110番の家」について、制度が形骸化していないか。

〔答弁〕〔教育長〕本市は全ての小学校で取り組んでおり、総登録件数は759件である。

大鷹沢小学校では全ての家庭が登録し、地域全体で見守るという取り組みをしている。

いざというときに有効に機能するよう指導している学校がある一方、年1回のお便りだけになっている学校もあることから、参考事例を各学校に示し、制度が形骸化しないよう指導していきたい。

〔質問〕子どもたちが「子ども110番の家」の存在を認識し、その関係

者と普段から関わりがなければ、いざという時に機能しない。

その点について、ぜひ指導強化していただきたいが、所見を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕同様の見解である。有効に働く仕組み、運用に変えていかなければならないと考えている。

市内には2名の安全主幹教諭が加配措置されているが、「子ども110番の家」事業も安全主幹教諭の主たる仕事のひとつだと認識している。

〔質問〕安全主幹教諭の現在の活動状況について伺う。

〔答弁〕〔教育長〕防災訓練の際、各地区に出向いて話し合いに参加している報告は受けている。

制度が始まって間もないことやモデル案もないことから、本市にお

いての実情に合った形で今後、活用していきたい。

〔質問〕「情報モラル教育」について、子どもたちのインターネットとの関わりと有害情報等の認識を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕インターネットは非常に便利なツールであるが、使い方を間違えると凶器にもなる。有害情報も氾濫しており、容易にアクセスできる環境にあると認識している。

〔質問〕情報モラル教育の状況について伺う。

〔答弁〕〔教育長〕各学校での年間指導計画に位置づけ、計画どおりに行うとともに、保護者にも子どもと向き合う情報モラルの啓発を行なっている。

今後も情報モラル教育を推進していきたい。

【その他の質問】

◎施政方針について

◎第六次白石市総合計画策定について

ふるさと名物応援宣言について

佐久間 儀郎



〔質問〕市は新たな地域ブランドを「新白石三白」として、白石商工会議所を通じて、当該産品を用いて地域活性化を図る事業者を支援するとしている。

また、中小企業庁では、地域ブランド創出の取り組みを促進する観点から、市町村において地域を挙げて支援を行う「ふるさと名物」を特定し、「ふるさと名物応援宣言」をすることを提唱している。

これは、積極的な情報発信を行なっていくことで、地域資源活用事業計画の補助金においての優先採択やふるさとプロデューサー育成事業への優先参加、ミ

ラサポ（中小企業経営者をサポートするサイト）での情報発信といった優先措置が受けられるものである。

「ふるさと名物応援宣言」を生かして、地域活性化を図る事業者を積極的に支援する検討をされてはどうかと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】本年度において、一つの自治体で複数の宣言が可能との判断が示されたことから、第1弾として「こけし」を第61回全日本コンクールで応援宣言することを考えている。

◎学校給食について

〔質問〕学校給食は、学校教育活動の二環として実施され、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける上で重要な役割を担う。

昨今の食材価格の上昇によって、学校給食にも影響が及んでおり、他市では限られた予算の中で必要な栄養量を満たすメニューを提供できるよう、努力を重ねていると聞く。

本市では、米代だけでなく輸送費の上昇の影響も受けて、副食に使える予算が減り、栄養量を確保できていないのではないかと懸念している。

また、残食の課題も抱えているのであれば、併せて現状を伺う。

〔答弁〕【教育長】本市の学校給食における栄養摂取状況は、栄養教諭による献立、使用する食材の工夫努力により大幅に改善しており、各栄養素とも心配されるような状況にはないと認識している。

残食については、全て廃棄処分とし、処理施設で焼却処分をしている。

エス・ディー・ジーズ「SDGs」の積極的推進について

管野 恭子



〔質問〕SDGsは「誰一人取り残さない」の理念のもと、世界における貧困・飢餓、健康・福祉、教育、気候変動、平和・公正等の課題解決に向け、世界各国が取り組む17の目標のことである。

2015年9月に国連加盟国が全会一致で決議、達成期限を2030年とし、日本も2016年にSDGs推進本部を設置し、取り組んでいることから、本市も積極的推進を図るべきと考える。

第六次白石市総合計画は、SDGsの理念「誰一人取り残さない」を根底において策定すべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】第六次白石市総合計画は、将来にわたって持続可能なまちづくりというSDGsと同様の理念に沿って策定していきたいと考えていることから、SDGsの理念と乖離（かいり）するものではないと認識している。

〔質問〕市長を本部長とした「白石市SDGs推進本部」を設置し、SDGsの理念の啓発と具体的な行動を官民一体となり推進していくべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】自治体SDGsを推進するには、行政のほか、企業、福祉、教育、医療、商工関係等の全ての市民が目的を理解し、ともに学び、協力し合わなければならない。

今後、どのような方針が良いか、総合的に検討していきたい。

検討していきたい。

〔質問〕SDGsの推進には、本市全職員のSDGsに対する理解度の向上が重要であり、啓発を図るべきと考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】市職員がSDGsの意義、目標などの理解がないと、推進は難しいと思う。

今後、啓発について検討していきたい。

◎市税等納付にスマートフォン決済アプリ活用について

〔質問〕コンビニエンスストアで市税等を納付できる利用者が、スマートフォン決済アプリを活用して納付できるサービスがある。

本市においても導入すべきでないか。

〔答弁〕【市長】先行自治体と情報の共有を図り、導入できるよう前向きに検討したい。

【その他の質問】

◎不育症の周知と患者支援について

平成31年度施政方針について

松野 久郎



く検証・改善サイクルを確立させることで、成果につなげていきたい。

〔質問〕平成31年度を「教育改革元年」と位置づけ、さまざまな施策を展開するとあるが、平成30年度の取り組みから転換した理由と平成31年度に取り組む施策の効果・成果を伺う。

〔答弁〕「教育長」平成30年度から政策転換したのではなく、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、平成31年度を子どもたちの学力向上等を図るさまざまな施策を展開していくスタートの年と位置づけたものである。

学力面では、子どもたちの現状、学校としてどのように改善すべきかを明らかにし、改善計画を立てて実践してい

く検証・改善サイクルを確立させることで、成果につなげていきたい。

〔質問〕地域の発展と人材の育成に寄与するため、包括的な連携・協力に関して仙台大学との協定締結を提案するが、所見を伺う。

〔答弁〕「市長」仙台大学との連携は、本市のスポーツ振興や青少年の育成に多大な影響を与えるものであり、大変有効と考える。

健康福祉分野でも専門的で幅広い知見を有しており、市政運営の面からも重要であると考えられることから、今後、協定の締結について検討していきたい。

〔質問〕これまで「オーダーメイド方式」を提唱していた企業誘致について、その方針を変えるのか伺う。

〔答弁〕「市長」これまで4つの工業団地を整備し完売しているが、団地造成の適地がなかったことから、できる限りオーダーメイド方式で対応してきた。

現在、スマートーCの整備・検討を進めているが、その価値を最大限活用できるよう検討し、適地と条件が整えば、オーダーメイド方式にこだわらず工業団地の造成に着手できると考えている。

〔質問〕「人・農地プラン」の今後の取り組みについて伺う。

〔答弁〕「市長」今後、さらなる農地集約に関する話し合いの場を各地区で行い、担い手の農地集約を推進していく。

その他の質問

◎いじめの防止等に関する条例の制定について

◎中学校統合最終の準備状況と中学校跡地の利用方法について

施政方針について

伊藤 勝美



している。

〔質問〕平成31年度の予算編成をするに当たり、市民の暮らしや本市の地域経済の現状をどのように把握されているのか。

〔答弁〕「市長」全体的な経済の好況が続いていることを反映し、企業の業績も前年並を見込んで予算編成している。本市の経済はやや上向きであると思われるが、これは大規模な事業所の業績により本市の経済を押し上げているものである。

しかし、市中心部の商店街では依然として空き店舗も見受けられ、厳しい状況に置かれている個人事業主や中小事業所も多くあると感

覚している。

また、雇用においては有効求人倍率が1.40となっており、今なお人手不足が続いている現状である。

〔質問〕財政状況及び市政課題をどのように認識されているのか。

〔答弁〕「市長」自主財源に乏しく、地方交付税や国庫支出金等への依存が高い財政構造にあり、依然として収支不足の状況にある。

このため財政調整基金の取り崩しが続いており、基金残高が年々減少している。

多くの市政課題は人口減少に起因しており、人口減少抑制対策が市政運営における最重要課題であると考ええる。

〔質問〕「平成31年度は効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する

ため、アセットマネジメント計画を策定し、持続可能な水道事業の構築に努め、自己水源の活用による広域水道受水費の削減に取り組む」としているが、具体的にどのような取り組みをするのか。

〔答弁〕「市長」本市では特に管路の老朽化が著しいため、中・長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体を効率的にし、今後の財政収支と照らし合わせ、必要な更新費用に対する検討を行い、計画を策定していく考えである。

また、広域水道受水費は、水道水の供給に要する費用の中でも大きな割合を占めているため、本市の良質な自己水源を活用して、広域水道からの受水を減らすことによる受水費削減も検討している。

その他の質問
◎児童虐待防止につ

児童虐待・児童の権利について

大野 栄光



〔質問〕「先生、どうにかできませんか」。10歳の少女は担任に父親の暴力からの救いを求めた。そんな少女の願いもむなしく、幼い命は守られることなく途絶えてしまった。

「秘密は守ります」というアンケートに「途な願いを込めて一生懸命に訴えた少女は、毎日を耐え忍び、希望の灯を頼りに心のうちを打ち明けたと思う。」

しかし、亡くなった後の少女の胃の中には食べ物が入っていなかったという。

子どもの幸せの権利は本当に守られているのか、この件について教育長の見解を伺う。

〔答弁〕【教育長】このような悲惨な虐待事件が後を絶たず発生していることは非常に残念でならない。

本市においても、このような事件が発生しないよう、引き続き児童・生徒の生命の安全を第一に、関係機関との連携を密にし、児童虐待防止に努めていく。

〔質問〕保護者が児童に対して懲戒権をかざし、「しつけ」として暴力行為を行う場合がある。

本市において、子どもがそのような親の暴力を受けている事例が起った場合、対応はどのようなになっているのか伺う。

〔答弁〕【教育長】野田市において発生した女子児童死亡の事案を受け、内閣府、文部科学省、厚生労働省の要請で、児

童虐待が疑われる事案に係る緊急点検を、本市も含め全国一斉に学校を初めとした関係機関が実施している。

今回発生したような事案の再発防止に、本市としても緊急に点検を取り組んでいるところである。

なお、今回の緊急点検において、本市の学校から児童虐待のおそれのあるとした事案は報告されていない。

また、学校における児童虐待防止の取り組みの再点検や児童・生徒の安全確認について適切な対応を図るよう、白石市校長会、教頭会を通じて周知するとともに、これまで以上に関係機関との連携を密にし、児童虐待防止に努めていく。

【その他の質問】

◎新元号移行について

◎水力発電について

◎自主財源について

施政方針について

佐藤 秀行



〔質問〕目指すべき教育の姿として、確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスのとれた児童・生徒を育てることが重要であると考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】平成31年度を教育改革元年と位置づけ、学力向上を大きな柱としているが、同様に豊かな心を育むことや健やかな体の育成も、これまでと変わりなく取り組んでいく。

〔質問〕幼稚園や小・中学校での生活介助や学習支援を行うための「特別支援教育支援員」の必要性について、また、支援員を学校の実情、要望に応じた継続配置や適正配置、さらに増

やしていくことも必要であると考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】担任等の指導の補助を基本的な役割とする特別支援教育支援員の必要性については理解している。

特別支援教育支援員の配置については、学校の実情に応じ、現場の声を聞きながら、配置の必要度の高い学校に対し、予算の範囲内で適正に配置していると認識している。

〔質問〕オーストラリアとの姉妹都市交流については、生徒の国際的な視野の拡大等のためにも、ぜひ続けてほしい事業の一つである。

早期の提携に向けて、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】青少年の国際感覚醸成、そのため海外での研修は、中学

生にとって非常に有意義な事業である。

今後、慎重に判断しなければならぬが、総合的にさまざまな角度から検討していく。

◎エアコン設置について

〔質問〕エアコンについては、普通教室だけでなく特別教室についても設置が望まれる。

特別教室への設置も検討するということがあるが、どのように考えているのか。

また、各小・中学校にどれくらいの設置を見込んでいるのか伺う。

〔答弁〕【教育長】基本は全ての学校の普通教室に設置するものであるが、学校の事情を聞いて、特別教室の設置も検討しているところである。

現時点においては、各小・中学校の合計で、普通教室116室、特別教室37室、計153室を見込んでいる。

常任委員会行政視察報告

市議会では、市政の課題などに取り組むため、昨年11月、先進的な事業に取り組む自治体の行政視察をそれぞれの常任委員会で行いました。今回の行政視察を通じて得た各市の事業内容については、今後も市議会や常任委員会として、さらなる市政の発展に取り組んでまいります。

総務産業建設常任委員会

平成30年11月15日(木)

11月16日(金)

◎富山県魚津市

●インバウンドの取り組み

【事業の概要】

富山県の外国人観光客で最も多く訪れている国は、富山空港への直行便のある「台湾」となっており、その行き先のほとんどが「立山・黒部アルペンルート」と「黒部峡谷鉄道」であった。ちょうど中間点に位置する魚津市にお

ては、地理的優位性を活かした外国人観光客の増加を図るため、ターゲットを「台湾」に絞り、平成27年11月の台湾現地でのプロモーション活動を皮切りに事業を実施した。平成28年1月には市長、議長、商工会議所、観光協会、農協、漁協、自治連絡協議会飲食業組合、他9団体によって「台湾インバウンド実行委員会」を設立し、年度ごとに、受入体制の整備、台湾現地でのPR活動、台湾メディアの招聘、現地雑誌への掲載等、台湾からの観光客誘客を図るため、さまざまな事業を展開している。

【事業の内容】

事業の大きな特色として、富山県を訪れる外国人観光客の多くが台湾人であったことから、台湾にターゲットを絞った事業を展開している。また、台北国際旅行博に出展した際、あえて中小規模の旅行者団体「ターゲット」を絞り、現地旅行業協会と面

識を持ち、関係構築を行い、小規模ながら観光客の送客を実現。現在も機会をみては商談を実施している。

その他、ワーキングホリデーを活用し、台湾人女性を登用。台湾人が通訳・翻訳等の業務を担うことにより、現地活動や観光PRの迅速かつ効果的な業務の遂行を実現した。

【主な事業実施事例】

- 受入体制の整備
- 台湾現地でのPR活動
- 台湾メディアの招聘
- 現地雑誌掲載

◎富山県富山市

●セーフ&環境スマートモデル街区整備事業

【事業の概要】

富山市では高い道路整備率や強い戸建て志向を背景に、市街地が外延的に拡大し、都市管理コストの上昇や中心市街地の衰退が懸念されていた。また、自動車保有率も高く、その影響から公共交通機関の衰退も著しい状況にあったことから、公共交通を活性化させ、その沿線に居住・商業

・業務・文化などの都市機能を集積させるといふ公共交通機関を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進している。

コンパクトなまちづくりを推進する中で、そのまちづくりを基本とした環境政策も推し進め、平成20年7月には環境モデル都市に、平成23年12月には環境未来都市に選定され、平成24年5月に富山市環境未来都市計画を策定。平成26年6月に計画の更新があり、その際の二事業として実施した。

事業は、公共交通沿線の低未利用地等において、環境に優しく、安全安心で快適な生活を享受できるモデル街区を整備し、公共交通沿線での利便性の高い暮らしや環境等に配慮した質の高い住宅供給の促進を図ることを目的としている。

「コンパクトなまちづくりの推進」「低炭素省エネルギーに配慮したまちづくり」「官民連携による質の高い生活環境の提供」を事業プロポーザル要項として募集し、選定事

業者へ旧豊田小学校跡地を売却。平成29年4月より街区内の建設工事に着手し、同年10月より分譲を開始した。

【街区内に整備された主な機能】

- ①街区内の住宅に、太陽光発電システムと家庭用リチウムイオン蓄電池、家庭用燃料電池を搭載
- ②災害時等の防災拠点となる公民館等に光ダクトを設置し、エネルギー消費を抑えるとともに、太陽光発電システムなどを設置
- ③街区内の公園にリチウムイオン蓄電池、防災倉庫、雨水タンクなどを設置し、災害対策機能を整備
- ④まち全体のエネルギーの見える化システムの導入
- ⑤公共施設で発電された電力を街区内で電力を共有する太陽光発電システムを導入
- ⑥災害時の二次被害を防止するため、街区内を無電柱化し整備

厚生文教常任委員会

平成30年11月13日(火)

～11月14日(水)～

◎愛知県一宮市

●ICT技術を活用したプログラミング教育等の取り組み

【事業の概要】

知識基盤社会が進展する中、学校は「確かな学力」「豊かな心」「健やかなからだ」の育成と、これからの社会を生き抜く「未来に生きる力」の育成が二層求められている。

さらには、家庭や地域社会との連携をより図り、「信頼される学校づくり」を進める必要があることから、一宮市はこれらの要請に応えるため「めざす子ども像」を定め、その実現のために「一宮市学校教育推進プラン」を策定している。

推進プランは「確かな学力育成プラン」「豊かな心育成プラン」「健やかなからだ育成プラン」「未来に生きる力

育成プラン」「信頼される学校づくりプラン」の5つを柱とし、ICT教育は「未来に生きる力育成プラン」の施策として位置づけられており、情報社会の進展に主体的に対応できる力を育てることを掲げている。

【事業の内容】

① ICTを活用した教育について

○一宮市立小・中学校のICT環境整備

○小学校での情報教育

○中学校での情報教育

○教員のICT活用研修

② プログラミング教育について

○一宮市独自の研究指定

○文部科学省の研究指定

○ペーパー社会貢献プログラミングスクールチャレンジ

○わくわくプログラミング教室

③ 情報モラル教育について

○地方創生事業による情報モラル教育の早期実施

○情報モラルリーフレットの配付

○情報モラル教育に関する研修の実施

◎静岡県藤枝市

●健康・予防日本一のまち藤枝づくりに向けた「ふじえだプロジェクト」

【事業の概要】

藤枝市は、特定健診やがん検診受診率が全国的にトップクラスである。

市は重点戦略として「暮らしの基本」4K政策(健康、教育、環境、危機管理)を掲げており、その中の「健康」の政策として「健康・予防日本一ふじえだプロジェクト」がスタートした。

ふじえだプロジェクト推進の発端は、平成25年3月に「第1回健康寿命をのばそう!アワード」の厚生労働省健康局長優良賞を受賞したことに始まる。また、これを機に受賞自治体全国25市町により先進事例研究を行う「健康寿命延伸都市協議会」が発足され、毎年、意見交換が行われている。

その他、本事業が評価されたことにより、タイ王国地方創生会議への招聘やアジア、アフリカ各国からNGOらが

視察に訪れるなど、国内だけではなく国際的にも周知されている。

【事業の内容】

① 健康・予防日本一ふじえだ推進体制について

○守る健康(命を守る)

○発症予防、重症化予防、地域保健医療の推進

○創る健康(命を輝かせる)

○豊かなライフスタイル、健康寿命の延伸、ポピュレーションアプローチ

② 健康・予防日本一ふじえだプロジェクトについて

○歩いて健康「日本全国バーチャルの旅」

○ふじえだ健康スポット20選

○ふじえだ健康マイレージ

③ その他の取り組みについて

○楽しく歩いて健康アプリ「あるくら」の開発

○「賢く食べて健康」～C級グルメグランプリ～

○「賢く食べて健康」～野菜を食べて健康フェア～

○ふじえだ「まるごと健康経営プロジェクト」

経営プロジェクト

議会を傍聴してみませんか!

6月定例会は、6月6日(木)

午前10:00開会予定です。

また、インターネットで議会中継や録画映像の視聴もできます。

●2月定例会の傍聴者数 38人

●ライブ中継視聴者数 1,157人

市民との意見交換会を開催しました!

3月24日(日)、31日(日)の2日間で、白石市役所を会場に開催しました。

詳しい内容は、市のホームページや議会だよりなどでお知らせしていきます。

●3月24日(日) (総務産業建設常任委員会)

午前の部: 15人 午後の部: 9人

●3月31日(日) (厚生文教常任委員会)

午前の部: 8人 午後の部: 6人

意見書

定例会最終日(3月8日)に議員提案として次の意見書が上程され、採決の結果、賛成多数で可決され、意見書は関係機関に送付されました。

◎中小業者の自家労賃を必要経費として認めることを求める意見書(概要)

中小業者においては、それを支える家族従業者の自家労賃が税法上、白色申告では必要経費として認められていない。税法上では、青色申告すれば給料を経費とすることはできるが、白色申告でも記帳が義務づけられており、どちらの申告であっても家族従業者の労働は正当に評価されるべきである。

よって、中小業者の家族従業者の自家労賃が必要経費として認められるよう所得税法第56条の改正を求めることについて、地方自治法第99条の規定に基づき、関係大臣及び国会に意見書を提出しようとするものである。

第434回 市議会定例会（3月8日）			意見が分かれた議案の賛否一覧																		
			議決 結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
				佐藤 龍彦	保科 善一郎	伊藤 勝美	澁谷 政義	沼倉 啓介	平間 知一	管野 恭子	志村 新一郎	大野 栄光	山谷 清	四竈 英夫	小川 正人	菊地 忠久	佐藤 聡一	佐藤 秀行	松野 久郎	大町 栄信	佐久 間儀郎
議提第1号 中小業者の自家労賃を必要経費として認めることを求める意見書			原案 可決	○	○	○	○	○	○	×	議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※「○」⇒賛成した議員、「×」⇒反対した議員、「欠」⇒欠席した議員、「議」⇒議長のため表決に加わらない

◆◆◆ 平成30年 議会の活動状況 ◆◆◆

平成30年は、4回の定例会(2月・6月・9月・12月)が開催されました。その概要は次のとおりです。

◎議会の開催状況

会議名	招集回数	会期日数
定例会	4回	59日
臨時会	0回	0日

会議名	開催日数	会議名	開催日数
本会議	21日	特別委員会 予算審査	6日
		決算審査	2日
議会運営委員会	17日	スマートインターチェンジ設置推進	1日
常任委員会 総務産業建設 厚生文教	7日	委員会等 議会広報委員会	8日
		議会改革推進会議	6日
		政策企画調整会議	9日

◎提出議案の状況

[単位: 件]

市長提案議案							
条例	予算	人事	契約	専決	決算	その他	計
34	26	5	1	9	2	7	84

議員提案議案					請願
条例	意見書	決議	その他	計	
1	6	0	0	7	0

◎議案等の議決状況

[単位: 件]

原案可決	同意	認定	承認	不採択	否決	計
71	5	2	9	0	4	91

◎議会の傍聴者数

男	女	計
83人	56人	139人

議会広報委員会 委員

委員長	管野 恭子
副委員長	佐藤 聡一
委員	佐藤 龍彦
委員	保科 善一郎
委員	伊藤 勝美
委員	四竈 英夫
委員	菊地 忠久
委員	佐藤 秀行
委員	松野 久郎

議会広報委員会

菊地 忠久

「平成」の幕が閉じ、御代替りが行われます。新しい時代の始まりです。今上陛下のご事績に想いをいたすとともに、新帝陛下のご即位を心よりお祝い申し上げます。

2月議会は、本年度の予算を審議・可決いたしました。財政状況が厳しく、市政課題も山積しておりますが、4月25日に新たな賑わいの創出とさらなる魅力発信に向け「おもしろいし市場」がオープンしたことは明るい話題です。

新しい時代とともに白石市の未来も希望に満ちあふれたものとなるよう、市議会としてもさまざまな発信と努力をしてまいります。

編集後記